

いじめ・いじめられるの直接動機

被虐待児と親の治療(池田,1987)

治療機関への導入

弱いものいじめ
 容貌についていじめる
 強要に応じながらいじめる
 「自己本位すぎる」といっていじめる
 いたずら・遊びがエスカレートしていじめとなる
 「生意気」といっていじめる
 家庭内事情をあげつらっていじめる
 同情を引くために「いじめられる」という
 行きすぎた制裁
 「やり口がきたない」といっていじめる
 八つ当たり
 行為を批難されていじめかえす

1. 子どもの保険
 - ・医療機関への入院治療
 - ・児童相談所での一時保護(里親、施設を含む)
 - ・家庭での監督指導
2. 子どもの治療
 - ・医療的治療、リハビリテーション
 - ・精神療法
 - ・デイケアセンター
3. 親の治療(親の機能強化と危機介入)
 - ・精神療法、カウンセリング
 - ・薬物療法
 - ・親の相互援助、自助グループ(Parents Anonymous, Parents Untiedなど)
 - ・福祉的援助
 - ・緊急電話サービス(ホットライン)
 - ・親の入院治療

- ・当面は両親のみの通院で
- ・本人にも通院のことを知らせてゆく
- ・通院日の当日は、必ず一声かけて誘う
- ・カレンダーへの記入
- ・担当医の素性をきちんと知らせる
- ・病院から帰ったら、面接の内容を伝える
- ・通院するよう説得はしない
- ・くどくならないよう、まめに声をかける
- ・「通院する代わりに～」といった取引には応じない



生徒間暴力の直接動機

勢力争い
 生意気だから・目立つから
 たれこみに対する制裁
 プライドを傷つけられたから
 遊び・冗談
 「自己本位すぎる」者へ暴力を加える
 行きすぎた制裁
 強要に応じない者へ暴力を加える
 弱い者へ暴力
 特殊状況下(シンナー等)の暴力

不登校と家庭内暴力の予防と治療

家庭内暴力の特徴(江幡)
 1)外では良い子で特に問題はなく見える。
 2)乱暴が母だけ(父だけ)に向くなど、背景に親子関係の問題を予測しうる。
 3)比較的に勉強のできる子であることも多い。
 4)非行的用件が外では認められない。

家庭内暴力の分類(青少年白書)
 1)家庭内暴力のみ
 2)家庭内暴力+不登校
 3)家庭内暴力+不登校+非行
 4)家庭内暴力+非行

家庭内暴力の特徴(清水)
 1)普段はおとなしい、いい子で、近所の評判はよい。
 2)内面と外面が豹変する。
 3)父親よりも母親に暴力を加えることが多い。
 4)兄弟にはあまり手をださない。家財や器物破損がひどい。
 5)ノイローゼ、精神病、不登校などを認めない。
 6)原因は全て親子関係のひずみに還元される。

家庭内暴力の分類(全国少年補導センター)
 1)純型:家庭内のみで暴力をふるうのみ
 2)不登校型:不登校と暴力が合併したもの
 3)混合型:金品の持ち出し、万引き、無断外泊などが不登校、暴力に合併す
 4)非行先行型:暴走族加入、不良交友、恐喝などが先行
 5)境界型:精神病と診断しにくい、うつ病まあは初期分裂病の合併が疑わしい

家族歴

	祖 父	祖 母	祖 父	祖 母	
職歴・学歴					
病 名					
問 題 点					
	父 (実, 継) 生死 年令	父母の離婚	母 (実, 継) 生死 年令		
住所学歴					
職 業					
病 名					
問 題 点					
子供のしつけ方	同胞数	性格	長所	短所	
2) 同 胞	第1子	第2子	第3子	第4子	第5子
年令・性別					
住 所					
学 歴					
問 題 点					
生活状況					
病気・性格					